

■ 令和5年度 事業計画（展示）

【特別展】

※観覧料の（ ）は20人以上の団体料金。中学生以下、障害者手帳を保持者と介助者1人は無料。

展覧会名・会期・観覧料	概 要
<p>杉浦非水の大切なもの 初公開・知られざる戦争疎開資料</p> <p>7月8日(土)～9月3日(日) 50日間</p> <p>大人 600円 (480円) 大高生 300円 (240円)</p>	<p>日本におけるグラフィックデザインの草創期に活躍した凶案家・杉浦非水（1876-1965）。その妻で、歌人として著名な杉浦翠子（1880-1960）は、川越の有力な商家・岩崎家の出身である。このたび、第二次世界大戦の戦況が一層深刻化した1944年（昭和19）に、非水が自身の膨大なグラフィック作品群を岩崎家に疎開させていたことが判明した。戦後東京に戻った非水はそれらを徐々に引き取ったが、一部は川越に残され、今日まで岩崎家の人々によって人知れず守り伝えられてきた。</p> <p>本展では、非水凶案の印刷物、著作物である凶案集、若干の書簡類や写真類、そして新発見の「非水百花譜」原画など、1200点以上に及ぶ非水疎開資料のなかから厳選した約300点を初公開し、その全容を紹介する。</p>
<p>川越の美術家たち 中村一美展</p> <p>10月21日(土)～12月10日(日) 44日間</p> <p>大人 600円 (480円) 大高生 300円 (240円)</p>	<p>抽象絵画の第一線で活躍する画家中村一美（1956 - ）の個展。現在埼玉県日高市を拠点に制作する中村だが、それ以前は川越に住んでいた川越ゆかりの作家である。</p> <p>千葉県に生まれ、東京藝術大学美術学部芸術学科で戦後アメリカの抽象表現主義絵画を理論面から研究した中村は、東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻に進み、1980年代初頭からは本格的に絵画の制作活動を始めた。絵画とは別の絵画との差異にのみ存在する、という認識に基づき「示差性の絵画」という概念を80年代に提唱し、これまでに数々の展覧会に出品しながら現在まで精力的に活躍し続けている。2015年には芸術文化選奨文部科学大臣賞を受賞した。</p> <p>近作および新作で構成される本展で、「存在の鳥」、「破庵」、「聖」の3種類のシリーズを主体とし、中村の今を紹介する。</p>

【常設展】

- ・第1期（3月29日(水)～6月18日(日)）川越ゆかりの作家たち
- ・第2期（6月27日(火)～9月18日(月)祝）特集：岩崎勝平
- ・第3期（9月21日(木)～12月17日(日)）抽象－ワカラナイを楽しむ
- ・第4期（12月21日(木)～3月24日(日)）日本画の革新－橋本雅邦から滝沢具幸まで－

【タッチアートコーナー】

※観覧無料

テーマ・会期	概要
第1期 所蔵品からはじめよう 3月29日(水)～6月18日(日)	館蔵品から、ブロンズや石など異素材の作品を複数展示し、彫刻の多様性を味わっていただく。
第2期 阿部靖道展（仮） 6月27日(火)～9月18日(月)祝	彫刻家・阿部靖道（1968- ）の石彫を紹介。阿部は、連鎖・連動する全ての事象や、時間と空間のイメージを、ひとつながりのループ状の造形で表現している。メビウスの輪のような彫刻の全ての側面が繋がる、アクロバットで有機的な作風をお楽しみいただく。触察可能。
第3期 金親敦展（仮） 9月21日(木)～12月17日(日)	美術家・金親敦（1989- ）の毛糸で制作された作品を紹介。金親はアニミズムをメインテーマとして、かぎ針編みを用い、編み物による立体造形を制作する。目に見えない存在に形を与え、顕現させるイメージで制作される作品を展示予定。触察可能。
第4期 高田純嗣展（仮） 12月21日(木)～3月24日(日)	彫刻家・高田純嗣（1980- ）は、鉄の持つ柔軟な塑性や循環性に魅了される作家。近年テーマとしている「植物」や「水の流れ」から、鉄の剛性と粘性を生かして創造される造形を紹介。触察可能な方向で調整中。